

東京都総合設計制度によって生み出された公開空地の緑化状況調査(1)



国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 主任研究員 武田 ゆうこ

1. はじめに

都市の生物多様性への関心の高まりに伴い、建物緑化についても生物多様性への配慮が求められてきている。生物多様性向上のためには在来種の利用が重要となるが、従来の建物緑化ではデザインや管理面から園芸種や外来種が多用されてきた。近年、在来種を中心に配植する事例が増加している。

ここでは、東京23区内の建物緑化事例の使用樹種について集計・分析を行った結果を報告する。

2. 調査対象・方法

平成23～29年度に東京都に提出された公開空地の「みどりの計画書」添付の植栽図面50件を入手し、植栽樹種、本数について集計・分析を行った。

3. 調査結果

(1) 公開空地面積、緑地面積と樹木本数

緑化基準値35%に対し、公開空地面積に対する緑地面積割合は、公開空地の大小にかかわらず5割前後が多かった。(図1)

1か所当たりの中高木本数は平均173本(17本～997本)、植栽密度は100㎡あたり平均16本(1.4～120.8本)で幅が大きかった。(図2)

公開空地は都市公園等の公的なオープンスペースを補完する重要なオープンスペースであり、都心部においては、都市公園に匹敵する数と面積を有している。

表1 都心3区の都市公園と公開空地

区	数		面積(㎡)		公開空地の割合
	都市公園	公開空地	都市公園	公開空地	
千代田区	23	106	266,546	212,864	80%
中央区	57	97	569,635	245,233	43%
港区	51	179	501,997	376,146	75%

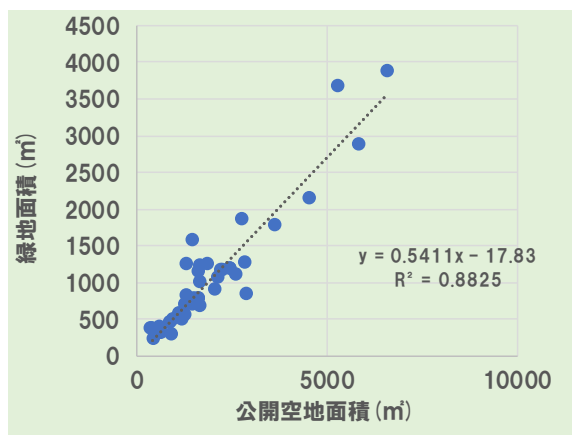


図1 公開空地面積と緑地面積

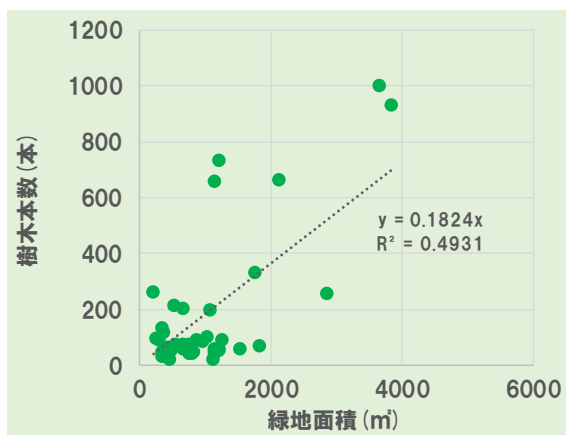
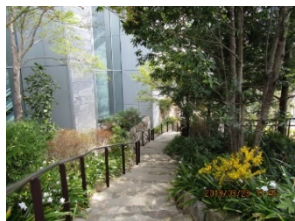


図2 緑地面積と樹木本数

公開空地の緑化状況



トライセブンロッポンギ(港区)



アクセスジャム(江東区)



グローバルフロントタワー(港区)



日大三軒茶屋キャンパス(世田谷区)

東京都総合設計制度によって生み出された公開空地の緑化状況調査(2)



国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 主任研究員 武田 ゆうこ

(2) 植栽樹種

中高木は163種が使われていた。

そのうち在来種は84種(52%)、そのうち東京都が在来種選定ガイドラインに掲載しているものが35種(21%) 外来種・園芸種が79種(49%)だった。また、樹木タイプで見ると、常緑広葉樹が55種(34%)、針葉樹が12種(7%)、落葉広葉樹が96種(59%)だった。(表2)

表2 樹木タイプ別の樹種数

樹木タイプ	在来種	(うち東京都推奨)	外来種・園芸種	合計
常緑広葉樹	33	19	22	55
針葉樹	7	1	5	12
落葉広葉樹	44	15	52	96
合計	84	35	79	163

(3) 植栽樹種

植栽されている中高木の総本数は7,262本で、植栽本数の多い10種はすべて常緑広葉樹だった。また、ヒラギモクセイとベニカナメモチ以外の8種は在来種だった。(図3)

種数では、在来種は約半数、うち東京都が「植栽時における在来種選定ガイドライン」で推奨する樹種は2割だったが、本数割合で見ると、在来種は70%、うち東京都推奨の樹種が48%と半数近く占めており、多様な樹種を使用しつつ、在来種を主に植栽していることがわかった。(図4)

箇所毎の使用樹種を見ると、カツラやヤマザクラ等の在来の落葉広葉樹が主に植栽されている箇所もあった。(図5)

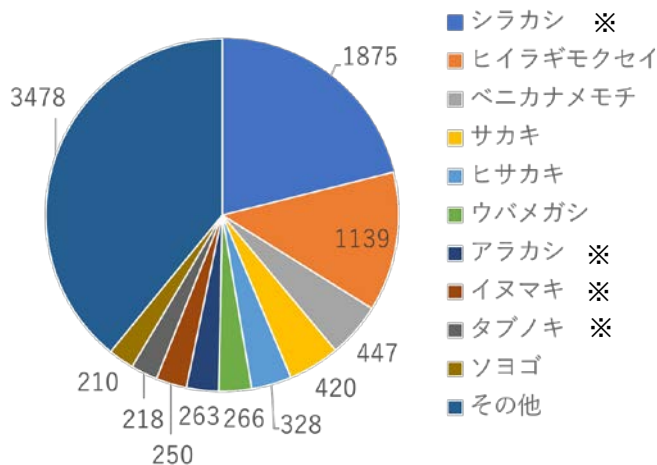


図3 樹種別本数

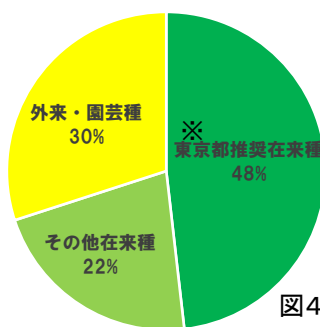


図4 在来種の割合(本数)

東京都は生物多様性向上を目指し、潜在自然植生をベースとした地域本来の在来種を選ぶための「植栽時における在来種選定ガイドライン」を作成している。

5. おわりに

東京都の建物緑化事例からは、公開空地面積に対する緑地面積割合の平均は53%、植栽樹種の7割は在来種が占めるなど、環境に配慮し緑地を形成しようとする取り組みが多くみられた。

今後、データの蓄積を進めるとともに 事例の分析を通じて、建物用途や立地、緑化面積等に応じて、生物多様性向上のため在来種を中心にしながら、快適性や季節感などを発揮できる配植方法について検討する予定である。

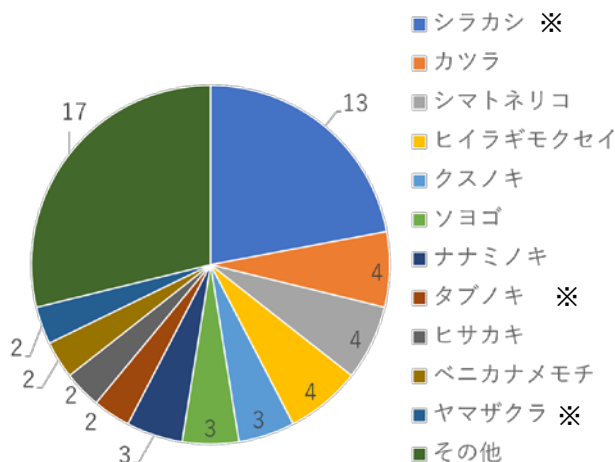


図5 最多使用樹種(箇所)